

## 編集後記

本号で第10号を迎えることになった。この室報（『技術教育学の探求』）の歩みは、この10年間の技術教育学研究室の歩みの一部でもある。名古屋大学教育学部に技術教育学講座が設置されたのは、1970年4月であったが、それ以来44年の歴史を刻むことになった。最初に着任されたのは、長谷川淳教授で、5年間名古屋大学に在籍された。1975年4月からは佐々木享助教授が長谷川教授に代わって、着任された。また、1985年4月からは5年間森下一期助教授がおられたが、その後1996年4月に寺田盛紀助教授が着任され、私が1999年4月に助教授として着任した。この44年間に5名の教官が本講座にかかわってきた。本講座にかかわった教官は、寺田教授を除いて、ロシアの技術教育や職業教育に関する文献や資料を収集し、それに関する研究や紹介をおこなってきた。1950年代半ばまで文部省職業教育課に勤務した長谷川教授は、アメリカとロシアの両方の技術教育や職業教育の動向をにらみながら、この分野の教育政策形成にかかわってきたと思われる。長谷川教授が名古屋大学に着任されたころから教育学関係のロシア語雑誌や文献などが教育学部図書室にかなり收藏されるようになった。全国の大学を見渡しても、北大教育学部以外にはロシア語雑誌や資料などがこれだけ蔵書として收藏されているところはないと思われる。最近の本誌にはロシア語の論文が多く掲載されているのは、私がこの間ロシアで開催される会議に参加してきたことが大きく関係しているけれども、先に述べた技術教育学研究室の伝統と無縁ではないことも付け加えておきたい。

長谷川教授の最初の研究生であった長谷川雅康氏（鹿児島大学教育学部教授）が定年を機にロシアの労働教育関係の資料（教授プログラム等）を本研究室に寄贈された。私としては、名古屋大学附属図書館のレポジトリに入れ、誰もが利用しやすいようにしたいと考えている。なお、この数年間に、本研究室の教授であった佐々木享先生の書かれた論文等を名古屋大学附属図書館のレポジトリに登録する作業を進めてきた。来年3月末までには、その作業がほぼ終わる予定である。本研究室にかかわった技術教育学研究者の研究業績もすでに相当な数をレポジトリに登録してきた。技術教育学を学ぼうとする人たちに最大限の便宜をはかるように今後もその作業を続けていく予定である。これらは本研究室のHPからリンクを張っているの、積極的に活用されることを期待したい。

本年度より、文部省科研費 基盤研究(B)（「北欧における職業教育・訓練に関する総合的研究——徒弟訓練を中心に——」）の助成を受け、本研究室として内外の共同研究者とともに北欧の職業教育・訓練に取り組むことになった。私自身は、7月14日から10月1日までスウェーデンのルンド大学に客員教授として滞在し、ルンド大学を拠点にスウェーデン各地の、徒弟教育にかかわっている高校、成人学校、高等職業学校、さらには北欧4ヶ国の各地の学校や研究機関を訪問、調査した。2ヶ月半という短期間ではあったが、この17年間に蓄積してきた人脈が大きく結実した日々であった。これまでに得た成果をもとに、帰国後の大学院のゼミでは、本共同研究のテーマにかかわる学習に取り組んでいる。名古屋大学教育発達科学研究科では、大学院生が海外で調査することができるような予算の枠組みを新たに制度化したので、本研究室からも北欧への調査に出かける院生が増えていくことを願っている。